

言 追 自 衛 隊 の 出 向

組合員を「自衛隊輸送部隊」へ売りこぼす 戦争推進勢力「革マル」を断じて許すな。

七月二六日の「監理委答申」により、「分割・民営化」一十万人首切りを許すか否かをかけた闘いは決戦段階に突入しているが、なんと動労「本部」革マルは「余剰人員の転職先」として「自衛隊への出向」を決定し、自衛隊の輸送部隊になることを組合員に強制している。産業報国会運動の先兵「動労」本部「革マル」を断じて許さず、国鉄労働運動から叩き出せ！

首切りへの協力を前提に、

組合員追い出し先探しに奔走

「監理委答申」は、合理化の推進等により一九八七年度首までに九万三千人の「余剰人員」を生み出すとともに、この「余剰人員」の処理について、①移行前に二万人の希望退職を募る。②旅客各社へ要員の二割〇三万二千人を移籍させる。③旧国鉄に四万一千人を残す。方針を明らかにした。これは、わずか一年半の間に、十万人の国鉄労働者の首を切るということだ。

従って、われわれの回答と任務は、一人の首切りも許さぬために、労働組合の原則をあくまで、堅持して闘うことであり、当面、当局による「希望退職」を拒否し、「新事業体に残る者」と「特別対策対象者」への区分けを許さぬ闘いを強化し、いつでも闘える万全の組織体制を確立することである。

ところが、動労「本部」委員長・革マル松崎は総評大会において「民間手法の大胆な導入(働こ



《2》

1985年(昭和60年) 7月28日(日曜日)

「国鉄余剰人員の行き先として自衛隊は是非か」今年になって動力車労組北海道本部で、こんなテーマで真剣な議論が戦わされた。「いへば働き口」困しても自衛隊とは……「と、色んな声も出たが、結局は「運輸関係の職場なら条件次第では行ってもいいのではなか」ということで落着いた。

北海道は六つの新会社の中でも、余剰人員問題が最も深刻な地域。転職する仲間を受け入れ先を動労自身が探し始めている。総点検作業の結果、地元では数少ない有望な受け入れ先として自衛隊が浮

かび上がったのだ。自衛隊は前身の警察予備隊当時、大卒に入隊した組が定年を迎え、今後六年間で毎年六千七千人が退職していく。人集めは深刻で、昨年末には国鉄本社に自衛隊東京地方連絡部の幹部が訪れ「余剰人員をわが方に回す手だてはないのか」と打診したほどだ。二十四歳以下は年齢制限を除けば、余剰人員の受け皿として国鉄内にも期待する所はある。動労本部の福原福太郎書記長は「自衛隊だか

労使

受け皿づくり

にさえ、条件によっては行くという方針を固めざるを得なくなってきたと「いへば」の間題の深刻さがうかがえる。

今、動労職場で何が起っているのか? No.6

七月二八日付毎日新聞の「国鉄再生・最後の処せん」欄によると、「分割・民営化」時点で二人に一人が「余剰人員」となる北海道において、動労北海道本部は「余剰人員の転職先」と称し、強事もあろうに、なんと「自衛隊への出向」を決意するのである。当然にも「余剰人員の行き先として自衛隊は是非か」をめぐる激論となり、組合員の「いくら働き口に困っても自衛隊とは」との率直な反対を押しきり、道本委員長・革マル柴田(現本部中執)は「運輸関係の職場なら条件次第で行ってもよい」との結論を出すのである。さらに本部書記長・革マル福原は「自衛隊だからと毛嫌いをしておられる状況にはない。骨身を削ってでも何でもやる。条件さえ整えば行くつもりは十分ある」といい切り、「雇用を守るため」と称し、組合員を侵略の先兵にしたてあげようとしている。

戦争・翼賛勢力「中曾根の手先き」
〓 動労革マルを粉碎・一掃しよう

動労「本部」革マルは、すでに八一年六月に「青函トンネルは赤字でもソ連に直面しているから」(裏面に続く)

全組合員・家族の強固な結束で組織破壊攻撃を粉碎せよ

安全保障の意味で国が保証し、国鉄職員は自衛隊
 鉄道部隊となつて輸送に協力する」との案を藤尾
 労相（当時）に提案したように、対ソを名目とし
 た有事即応体制を肯定したうえで、自らを自衛隊
 の輸送部隊と位置付ける戦争翼賛勢力としての正
 体を暴露した。つまり、「自衛隊への出向」は当
 然の結論なのだ。

われわれは、国鉄労働運動の内部に潜み、労働
 組合の看板を掲げ、労働者の仮面をつけて、丸ごと
 と翼賛運動にひきこむことを策動するファシスト
 集団「動労「本部」革マルの本質を見据え、国鉄
 労働運動からの追放、一掃を実現しなければなら
 ない。

●お知らせ●

来る8月16日（金）および17日（土）の両日
 の「日刊」は休刊とし、次号は「8月19日（月）
 第二〇一七号」の発行となります。



「分割・民営化」10万人首切
 リ粉碎の闘いの勝利にむけて、
 全国鉄労働者の総武装・
 総決起をかちとろう！

Ⅲ 待望の特集号 発行 Ⅲ

特集号の主な内容

● 「分割・民営化」攻撃をみすえ
 総反撃の闘いに決起しよう

● 「60・3ダイ改」～「3・24三里塚」に勝利した地平を打ち固め
 侵略戦争への道Ⅱ「分割・民営化」と対決し、

反動・中曽根内閣を打倒しよう

● 国鉄労働運動の展望

動労千葉執行委員長 中野 洋
 「60・3ダイ改」闘争を中心に

● 国鉄「分割・民営化」のねらい

労働運動研究家 杉田 明

● 闘いの記録

(84・6・9～85・4・16)